

エコアクション 21

環境経営レポート

2019 年度版

(2019 年 4 月～2020 年 3 月)



～ Seibu 夜桜～

LED 照明によるライトアップ

西部電機株式会社

2020 年 6 月 30 日発行

目 次

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲(認証・登録範囲)	2
3. 環境経営方針	3
4. 環境経営目標	4
① 全社	4
② 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	5
③ 支店・営業所・サービスセンタ	6
5. 環境経営計画	7,8
6. 環境負荷の実績とサイト別排出特性	9
7. 環境経営目標の実績と環境経営計画の取組結果及びその評価、 今後の取組	10
(1) 二酸化炭素排出量の削減	11
(2) 廃棄物排出量の削減	12
① 一般廃棄物排出量の削減	12
② 産業廃棄物排出量の削減	13
(3) 水使用量の削減	14
(4) 物質使用量(購入量)の削減	14
(5) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進	15
(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	16
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価結果並びに違反訴訟等の有無	16
9. 内部監査の実施状況	16
10. 環境教育訓練の実施状況	17
11. 全体の反省と今後の取組	17
12. 代表者による全体評価と見直しの結果	18
13. 地域への貢献	18

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

西部電機株式会社 取締役社長 宮地 敬四郎

(2) 本社及び支店・営業所所在地

本社	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号	
支店	東京支店	〒136-0071 東京都江東区亀戸二丁目26番11号
	大阪支店	〒530-0001 大阪市北区梅田三丁目4番5号
営業所	名古屋営業所	〒468-0015 名古屋市天白区原二丁目3101番地
	広島営業所	〒730-0051 広島市中区大手町二丁目2番9号
	九州営業所	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
出張所	札幌出張所	〒060-0033 札幌市中央区北三条東八丁目352番地
	仙台出張所	〒980-0802 仙台市青葉区二日町17番22号
サービスセンター	東京サービスセンター	〒272-0014 千葉県市川市田尻一丁目13番2号
	名古屋サービスセンター	〒468-0015 名古屋市天白区原二丁目3101番地
	大阪サービスセンター	〒567-0803 大阪府茨木市中総持寺町1番17号
	九州サービスセンター	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
工場	本社工場	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号

URL : <http://www.seibudenki.co.jp/>

(3) 環境管理責任者

専務取締役 藤岡 敬正

(4) 担当者連絡先

生産技術部 生産技術課 課長 松岡 大使
 事務局 権藤 利佳
 TEL 092-941-1525 FAX 092-941-1520
 E-mail : matsuoka-ta@seibudenki.co.jp

(5) 主要な事業内容

事業部門	主要な商品及び事業
搬送機械（マテハン）部門	立体自動倉庫、FAシステム、ケース自動ピッキングシステム、搬送・ハンドリングシステム、ロボテイクスマテハン
産業機械部門	バルブアクチュエータ、ゲート駆動装置
精密機械部門	超精密・高精密ワイヤ放電加工機、超精密ワイヤ放電加工機（油仕様） 高精密小形NC旋盤、正面旋盤

(6) 事業規模

（2019年度実績：2019年4月～2020年3月）

区分	搬送機械	産業機械	精密機械	生産技術部	管理部門	合計
売上高(百万円)	10,826	5,923	6,019	-	-	22,768
従業員数(人) 〈内支店・営業所〉	181 〈61〉	138 〈43〉	110 〈17〉	59	36 〈7〉	524 〈128〉
敷地面積	65,830 m ² （本社・工場・九州営業所・九州サービスセンターの合計）					

2. 対象範囲(認証・登録範囲)

(1) 対象組織

西部電機株式会社 (従業員数 524 人)

① 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ

〒 811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号

② 支店・営業所・サービスセンタ

東京支店

大阪支店

名古屋営業所・名古屋サービスセンタ

広島営業所

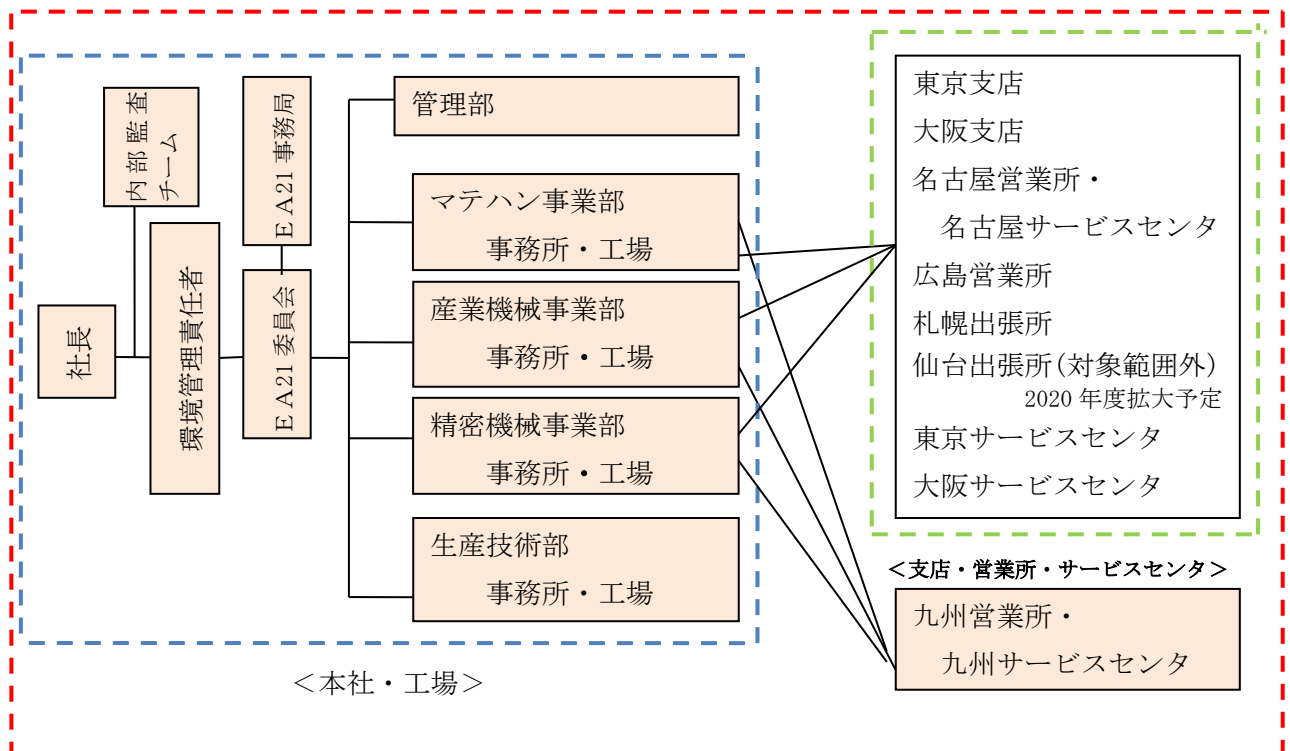
札幌出張所

東京サービスセンタ

大阪サービスセンタ

(2) 対象活動

搬送機械、産業機械、精密機械(ワイヤー放電加工機・工作機械)の製造販売



[全社組織図]

3. 環境経営方針

西部電機株式会社は、自然随順に即した技術の応用で、メカトロニクス製品を提供し、広く社会に貢献しています。今、地球環境の改善が世界共通の重要課題として認識される中、当社も企業活動のあらゆる面で地球環境の保全に努めています。今後も「環境と共存する西部電機」を目標に、積極的かつ継続的に改善活動を図ります。

環境スローガン

「未来に残そう豊かな自然」

基本理念

西部電機株式会社は、自然随順に即した技術の応用と、環境に配慮した企業活動及び社員の行動によって、地球環境の保全と改善を継続的に推進します。

行動指針

1. 企業活動にともなう環境への影響を把握し、環境保護の継続的改善と環境汚染の予防に取り組みます。
2. 環境に関する法規制、条例及び地域との協定などを遵守すると共に、「具体化対策」の策定及び実施により、環境保全の一層の向上に取り組みます。
3. エネルギー消費の削減、特に電力使用量の削減を図り、地球温暖化防止に努めます。
4. 廃棄物の削減と分別回収を図り、再資源化、再使用を推進し、資源の有効活用に努めます。
5. 省エネ、小形軽量化、部品点数の削減等環境に配慮した商品開発を推進します。
6. 化学物質の管理を徹底し、排出や流出などによる環境汚染の防止に努めます。
7. 購買に関しては、環境負荷の少ない資材、設備などグリーン調達を推進します。
8. 環境保護に関する社員教育を実施し、環境保全の意識向上に努めます。
9. 地球社会の一員として、環境保全の責任を果たし、安全で快適な地域社会づくりに貢献します。
10. 資源である水の有効利用を推進するため、節水に努め、水使用量の削減に努めます。

制定日 2012年9月25日

改定日 2013年7月 1日

西部電機株式会社

取締役社長

宮地 敬四郎

4. 環境経営目標

- 当社では、2012年10月よりエコアクション21の取組を開始し、2013年9月認証を取得、その活動を維持継続するため、2019年度の環境目標を次のように策定しました。
- 2016年9月に認証を拡大した各支店・営業所分も、2014年度データを基に目標を策定、併せて全社としての目標も策定しました。
- 2015年度より、すべての環境負荷値について基準年を2014年度に変更し、排出量を売上高で除した値を基に毎年1%の追加削減目標を設定しました。
- 2018年度より、改善活動(VE、IE)について効果金額の目標を設定しました。

① 全社

(事業年度:4月～翌年3月)

項目	単位	基準年	単年度目標	中長期目標			
		2014年度 (実績値)	2019年度	2022年度 (3年後目標)	2024年度 (5年後目標)		
(1) 二酸化炭素排出量計	kg-CO ₂ /百万円	240	228 (△5%)	221 (△8%)	216 (△10%)		
二酸化炭素排出量の削減	①電力使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	208	197 (△5%)	191 (△8%)	187 (△10%)	
	②ガソリン使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	18.6	17.7 (△5%)	17.1 (△8%)	16.7 (△10%)	
	③その他の化石燃料の削減	kg-CO ₂ /百万円	14.1	13.4 (△5%)	13.0 (△8%)	12.7 (△10%)	
(2) 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	kg/百万円	2.16	2.08 (△4%)	2.01 (△7%)	1.97 (△9%)	
	②産業廃棄物の削減	kg/百万円	10.45	10.03 (△4%)	9.72 (△7%)	9.51 (△9%)	
(3) 水使用量の削減	m ³ /百万円	0.51	2.06 (△5%)	1.99 (△8%)	1.95 (△10%)		
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/百万円	8.58	9.93 (△5%)	9.61 (△8%)	9.40 (△10%)		
(5) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進	①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	-	491	506	516	
	効果金額	VE	-	329,000	338,870	345,450	
		IE	千円	-	26,000	26,780	27,300
		合計	-	355,000	365,650	372,750	
②環境に配慮した製品の開発	件	5	3	6	8		
(6) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	PRTR制度対象物質の適正使用、適正管理に努め、届出を遵守する				

備考) ・ 二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の各電力会社の実排出係数を用いた。

・・・ 東京電力(株) 0.505 中部電力(株) 0.497 関西電力(株) 0.531 中国電力(株) 0.706 九州電力 0.584 kg-CO₂/kWh

・ () は基準年に対する削減率を示す。

・ 基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。

・ その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。

・ 環境に配慮した製品の開発については、各事業部の2016年度経営計画を基に作成した。

・ 環境改善活動と製品開発は、QC、VE、IE各事務局及び各事業部提出の年度目標の合計である。

・ 表中の - は非該当を示す。

② 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ

(事業年度:4月～翌年3月)

項目	単位	基準年	単年度目標	中長期目標			
		2014年度 (実績値)	2019年度	2022年度 (3年後目標)	2024年度 (5年後目標)		
(1) 二酸化炭素排出量計 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ /百万円	215	205 (△5%)	198 (△8%)	194 (△10%)		
	①電力使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	200	190 (△5%)	184 (△8%)	180 (△10%)	
	②ガソリン使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	6.5	6.1 (△5%)	5.9 (△8%)	5.8 (△10%)	
	③その他の化石燃料の削減	kg-CO ₂ /百万円	8.9	8.4 (△5%)	8.1 (△8%)	8.0 (△10%)	
(2) 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	kg/百万円	1.87	1.78 (△5%)	1.72 (△8%)	1.69 (△10%)	
	②産業廃棄物の削減	kg/百万円	10.00	9.50 (△5%)	9.20 (△8%)	9.00 (△10%)	
(3) 水使用量の削減	m ³ /百万円	0.47	0.45 (△5%)	0.43 (△8%)	0.42 (△10%)		
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/百万円	8.32	7.90 (△5%)	7.65 (△8%)	7.48 (△10%)		
(5)	①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	-	491	506	516	
	効果金額	VE		329,000	338,870	345,450	
		IE	千円	-	26,000	26,780	27,300
		合計			355,000	365,650	372,750
	②環境に配慮した製品の開発	件	5	3	6	8	
(6)	化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	PRTR制度対象物質の適正使用、適正管理に努め、届出を遵守する			

- 備考) ・二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の、九州電力(株)の実排出係数 0.584kg-CO₂/kWh を用いた。
 ・()は基準年に対する削減率を示す。
 ・基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。
 ・その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。
 ・環境に配慮した製品の開発については、各事業部の2015年度経営計画を基に作成した。
 ・環境改善活動と製品開発は、QC、VE、IE各事務局及び各事業部提出の年度目標の合計である。
 ・表中の - は非該当を示す。

③ 支店・営業所・サービスセンタ

(事業年度:4月～翌年3月)

項目	単位	基準年	単年度目標	中長期目標		
		2014年度 (実績値)	2019年度	2022年度 (3年後目標)	2024年度 (5年後目標)	
(1) 二酸化炭素排出量の削減	① 二酸化炭素排出量計	支店・営業所・サービスセンタ 計	25.0	23.7 (△5%)	23.0 (△8%)	22.5 (△10%)
		東京	3.39	3.22	3.12	3.05
		東サ	8.09	7.68	7.44	7.28
		大阪	1.63	1.55	1.50	1.47
		大サ	4.18	3.97	3.85	3.76
		名古屋	6.51	6.18	5.99	5.86
		広島	1.17	1.11	1.08	1.06
	② 電力の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	7.55	7.17 (△5%)	6.95 (△8%)	6.79 (△10%)
		東京	1.98	1.88	1.82	1.79
		東サ	1.62	1.54	1.49	1.46
		大阪	0.77	0.73	0.71	0.70
		大サ	0.76	0.72	0.70	0.69
		名古屋	1.50	1.42	1.38	1.35
		広島	0.91	0.86	0.84	0.82
	③ ガソリンの使用量の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	12.1	11.5 (△5%)	11.2 (△8%)	10.9 (△10%)
		東京	1.41	1.34	1.29	1.27
		東サ	2.21	2.10	2.03	1.99
		大阪	0.86	0.81	0.79	0.77
		大サ	2.74	2.60	2.52	2.46
		名古屋	4.65	4.42	4.28	4.19
		広島	0.26	0.25	0.24	0.24
	④ その他の化石燃料の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	5.30	5.04 (△5%)	4.88 (△8%)	4.77 (△10%)
		東京	0.00	0.00	0.00	0.00
		東サ	4.26	4.05	3.92	3.83
大阪		0.00	0.00	0.00	0.00	
大サ		0.68	0.65	0.63	0.61	
名古屋		0.36	0.34	0.33	0.32	
広島		0.00	0.00	0.00	0.00	
(2) 廃棄物排出量の削減	① 一般廃棄物の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	4,399	4,179 (△5%)	4,047 (△8%)	3,959 (△10%)
		東京	1,261	1,197	1,160	1,134
		東サ	445	423	409	401
		大阪	1,086	1,032	999	977
		大サ	892	847	821	803
		名古屋	478	454	440	430
		広島	238	226	219	214
	② 産業廃棄物の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	6,885	6,540 (△5%)	6,334 (△8%)	6,196 (△10%)
		東京	3,620	3,439	3,330	3,258
		名古屋	1,750	1,663	1,610	1,575
(3) 水使用量の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	518	497 (△5%)	482 (△8%)	482 (△10%)	
	東京	-	-	-	-	
	東サ	211	200	194	190	
	大阪	-	-	-	-	
	大サ	124	118	114	112	
	名古屋	183	174	168	165	
	広島	-	-	-	-	
(4) 物質購入量の削減 (紙使用)	支店・営業所・サービスセンタ 計	4,024	3,823 (△5%)	3,702 (△8%)	3,622 (△10%)	
	東京	1,231	1,169	1,133	1,108	
	東サ	806	766	742	725	
	大阪	791	751	728	712	
	大サ	477	453	439	429	
	名古屋	590	561	543	531	
	広島	129	122	119	116	

備考) ・二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の各電力会社の実排出係数を用いた。
 … 東京電力(株) 0.505 中部電力(株) 0.497 関西電力(株) 0.531 中国電力(株) 0.706 kg-CO₂/kWh
 ・()は基準年に対する削減率を示す。
 ・基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。
 ・その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。
 ・東京サービスの基準年水使用量に関しては、水もれが発生しているため、推定値で示した。
 ・札幌出張所は、東京支店に含む。
 ・表中の各サイトの略称は、下記の通りである。
 東京 … 東京支店、東サ … 東京サービスセンタ、大阪 … 大阪支店、大サ … 大阪サービスセンタ
 名古屋 … 名古屋営業所・名古屋サービスセンタ、広島 … 広島営業所
 ・表中の - は不明又は非該当を示す。

5. 環境経営計画

- 2019年度の環境経営計画は、以下のとおりです。
- なお、「本社・工場」は「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」を、「支・営・サ」はその他の支店・営業所・サービスセンタを示しています。

(1) 二酸化炭素排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	電力使用量の削減	日常的節電(人がいないときは照明、PCオフ等)各職場担当者を決め管理し状況を毎月EA21委員会にて報告する。	○	○
		エアコンフィルターの清掃清掃時期を、夏期は6月、冬期は10月に設定し、各部署で確実に清掃を行うよう徹底を図る。	○	○
		毎月の電力量をグラフ化し掲示することによって節電への意識を高める。	○	○
		気温、状況に対応し冷暖房のデマンドシステムの管理を行う。	○	-
		エアコンの温度設定を冷房28°、暖房20℃にする。	-	○
		精密工場の温度設定を夏期24℃、冬期22℃にする。	○	○
②	ガソリン使用量の削減	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集(毎月)・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○
		計画に則り、車両更新時には、ハイブリット車への変更を推進し、状況をEA21委員会へ報告する。	○	○
③	その他の化石燃料の削減	軽油使用量の削減 走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集(毎月)・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○
		ガス使用量の削減 データを収集分析し、EA21委員会へ報告する。	○	-
		精密工場の温度、湿度の設定値を見直し、削減を図る。	○	-

(2) 廃棄物排出量の削減

① 一般廃棄物排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
ア	生ごみなど、可燃廃棄物排出量の削減	各職場担当者を決め排出量を管理し、月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	○
イ	シュレッダー屑の分別	生ごみなどと混在して廃棄されているシュレッダー屑を分別廃棄し、リサイクル化する。又月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	-

② 産業廃棄物排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	サ
ア	廃塗料(廃プラスチック)の削減	塗装仕様書に基づき適正な使用量を計画し、管理する。	○	-
イ	廃油の削減	業者に買取が可能な廃油は、分別を徹底させ、200Lドラム缶単位で排出量を把握し、EA21委員会に報告する。	○	○
ウ	廃棄木材(リサイクル)の削減	リサイクル品として業者に収集を依頼している木材に関し、毎月廃棄量を集計し、EA21委員会に報告する。	○	-

* 「サ」はサービスセンタを示す

(3) 水使用量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	日常生活水の削減	節水シールを貼り、節水を意識づける。	○	○

(4) 物質使用量（購入量）の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	木材、ダンボール、紙使用の削減	毎月購入量を集計し、EA21委員会にて報告、廃棄量と合わせて、削減案立案に向け分析する。	○	○

* 「支・営・サ」は紙使用のみ

(5) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	QC、VE、IEに関し、環境活動に有効な改善の件数の把握と活動の推進	完結件数の把握とEA21委員会や各委員会での報告(3か月に一度)及び活動の推進。	○	○
②	環境配慮製品の開発	EA21委員会で、開発状況について報告する。	○	-

(6) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	化学物質の適正使用、適正管理の徹底	PRTR制度対象物質の集計を4半期毎に行いEA21委員会に報告、適正管理に努め、届出の遵守に備える。	○	-

(7) その他

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	内部監査の実施	内部監査計画書に基づき年に1度内部監査を行う。支店・営業所・サービスセンタは、必要書類の作成を行う。	○	○
②	教育訓練の実施	教育訓練計画書に基づき、定期的に教育訓練を行い、エコアクション21の全社員への浸透を図る。	○	○

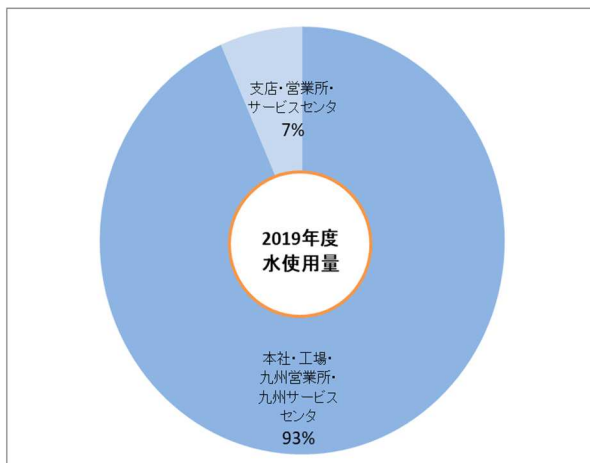
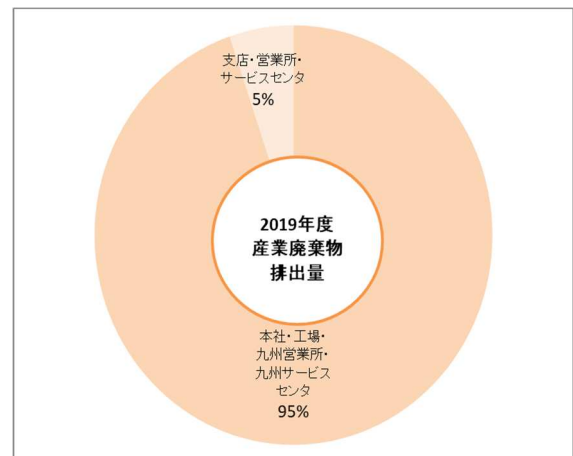
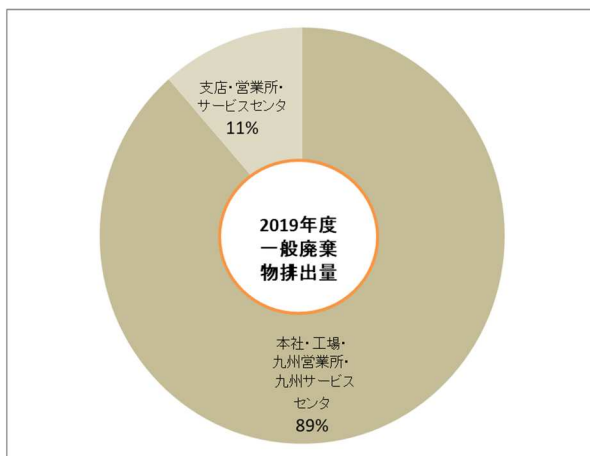
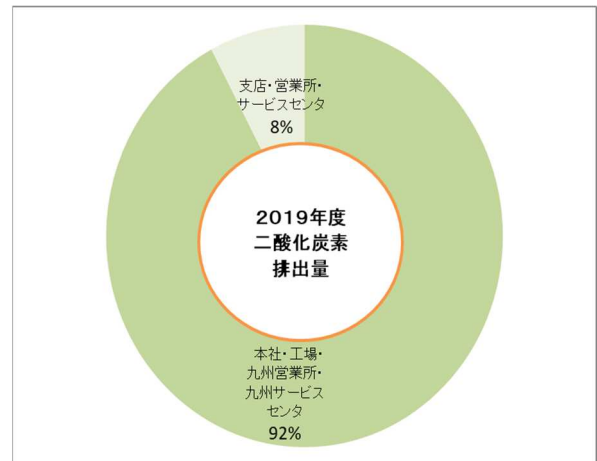
* - は非該当

6. 環境負荷の実績とサイト別排出特性

- 当社の主要環境負荷（二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量（総排水量））のサイト別排出構造は、以下のとおりです。
- いずれの環境負荷も「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」が全社の約9割を占めており、「支店・営業所・サービスセンタについては、1割前後で小さい」という排出特性をもっています。

環境負荷の実績及び配分

サイト名	二酸化炭素		一般廃棄物		産業廃棄物		水使用量	
	実績 (kg-CO2)	構成比	実績(kg)	構成比	実績(kg)	構成比	実績(m3)	構成比
本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	3,817,300	92%	34,727	89%	178,784	95%	7,640	93%
支店・営業所・サービスセンタ								
東京支店・札幌出張所	42,700	1.0%	697	1.8%	0	0%	-	-
東京サービスセンタ	117,258	2.8%	705	1.8%	2,363	1%	264	3.2%
大阪支店	22,831	0.6%	1,373	3.5%	0	0%	-	-
大阪サービスセンタ	58,503	1.4%	768	2.0%	3,218	2%	111	1.4%
名古屋営業所・名古屋サービスセンタ	71,881	1.7%	752	1.9%	4,205	2%	162	2.0%
広島営業所	8,793	0.2%	198	0.5%	0	0%	-	-
計	3,219,966	8%	4,493	11%	9,786	5%	537	7%
全社合計	4,139,266	100%	39,220	100%	188,570	100%	8,177	100%



7. 環境経営目標の実績と環境経営計画の取組結果及びその評価、今後の取組

- 今回は2019年度（2019年4月～2020年3月）における環境への取組状況を「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」、「支店・営業所・サービスセンタ」及び「全社」に区分して整理、評価しました。
- 原単位表記した環境経営目標については、実績値を期間内の売上高で割って計算しています。

<環境経営目標の実績（全社）>

- 環境経営目標の達成実績（全社）は以下のとおりです。設定した6項目（サブ含め10項目）のうち、物質購入量の削減及び、「環境に配慮した製品の開発」については、目標を達成できませんでした。

（事業年度：4月～翌年3月）

項目	単位	2014年度 (基準年)	2018年度	2019年度(2019年4月～2020年3月)				排出量及び使用量(購入量)実績				
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標 達成率	達成状況 判定	単位	2014年度	2018年度	2019年度	
(1) 二酸化炭素排出量計	kg-CO ₂ /百万円	240	143.8	228	181.8	126%	○	kg-CO ₂	3,646,207	4,133,302	4,199,267	
	①電力使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	208	128.5	197	164.3	120%		○	3,149,729	3,656,964	3,799,810
	②ガソリン使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	18.6	9.5	17.7	11.0	161%		○	281,913	270,554	250,635
	③その他の化石燃料の削減	kg-CO ₂ /百万円	14.1	5.9	13.4	6.5	207%		○	214,565	166,318	148,822
(2) 廃棄物の削減	kg/百万円	2.16	1.38	2.06	1.72	120%	○	kg	32,931	39,756	39,219	
	②産業廃棄物の削減 (物の金属類を除く) (有価)	kg/百万円	10.45	7.49	9.93	8.28	120%		○	158,446	213,287	188,570
(3) 水使用量の削減	m ³ /百万円	0.52	0.31	0.50	0.36	139%	○	m ³	7,574	8,908	8,177	
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/百万円	8.58	6.8	8.2	8.4	98%	×	kg	130,127	193,115	191,883	
(5) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進												
	①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	533	556	491	555	113%	○	件	533	556	555
	効果金額	円	-	35196	355,000	280,538	-	-	円	-	35196	280,538
②環境に配慮した製品の開発	件	5	2	3	2	67%	×	件	5	2	2	
(6) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	届出済	2020年6月届出済				○	-	-	-	-

備考) ・2019年度の生産高(売上高)は、22,768百万円として計算しました。
 ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
 ・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない

- 環境経営目標毎にとりまとめた目標達成状況の詳細と、それに対応した取組活動の実施状況、その評価と今後の取組方針は以下に示すとおりです。

(1) 二酸化炭素排出量の削減

環境経営目標を達成できました。排出量は、前年に比べ1%ほど増加していますが、これは、新工場稼働による増加を、冷夏の影響や、全社LED化の効果により、抑えられていると言えます。液化石油ガスのみ目標を達成できていません。これは、食堂の食洗器故障により、ガスの利用が増えたためです。現在は通常に戻っています。今後は、一歩踏み込んだ節電対策を行っていきけるよう、変化を注視していきます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目	単位	基準年	2018年度 (2018年4月～ 2019年3月)		2019年度 (2019年4月～ 2020年3月)		目標 達成率	達成状況 判定	2018年度排 出量 (kg-CO ₂)	2019年度排 出量 (kg-CO ₂)	
		2014年度 実績値	実績値	目標値	実績値						
(1) 二酸化炭素排出量の削減	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	kg-CO ₂ /百万円	215	132	205	168	122%	○	3,745,565	3,817,299	
	支店・営業所・サービスセンタ		25.0	12.3	23.7	14	172%	○	352,577	321,966	
	全 社		240	144	228	181	126%	○	4,098,141	4,139,265	
	① 電力使用量の削減	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	kg-CO ₂ /百万円	200	125	190	160	119%	○	3,559,658	3,648,313
		支店・営業所・サービスセンタ		7.5	3.4	7.2	4.0	180%	○	97,307	91,496
		全 社		208	128	197	164	120%	○	3,656,964	3,739,809
	② ガソリン使用量の削減	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	kg-CO ₂ /百万円	6.5	3.6	6.1	4.0	153%	○	101,731	90,890
		支店・営業所・サービスセンタ		12.1	6.1	11.5	7.0	164%	○	173,580	159,744
		全 社		18.6	9.7	17.6	11.0	160%	○	275,311	250,634
	③ その他の化石燃料の削減	九州サービスセンタ	都市ガス	7.4	2.2	7.1	2.3	307%	○	62,513	53,073
			液化石油ガス(LPG)	0.9	0.8	0.9	1.1	80%	×	21,663	25,023
		本社・工場・九州営業所	軽油	0.5	0.0	0.5	0.0	100%	○	0	0
計			8.8	3.0	8.4	3.4	247%	○	84,176	78,096	
支店営業所・サービスセンタ		5.3	2.8	5.0	2.8	180%	○	81,690	70,726		
全 社		14.1	5.8	13.4	6.2	216%	○	165,866	148,822		

備考) ・2018年度の生産高(売上高)は、22,768百万円として計算しました。

・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。

・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 電力使用量の削減	日常的節電(人がいないときは照明、PCオフ等)各職場担当者を決め管理し状況を毎月EA21委員会にて報告する。	○	○
	エアコンフィルターの清掃清掃時期を、夏期は6月、冬期は10月に設定し、各部署で確実に清掃を行うよう徹底を図る。	○	○
	毎月の電力量をグラフ化し掲示することによって節電への意識を高める。	○	○
	気温、状況に対応し冷暖房のデマンドシステムの管理を行う。	○	-
	エアコンの温度設定を冷房28°、暖房20°にする。	-	○
② ガソリン使用量の削減	精密工場の温度設定を夏期24℃、冬期22°にする。	○	○
	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集(毎月)・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○
	計画に則り、車両更新時には、ハイブリット車への変更を推進し、状況をEA21委員会へ報告する。	○	○
③ その他の化石燃料の削減	軽油使用量の削減	○	○
	ガス使用量の削減	○	-
	精密工場の温度、湿度の設定値を見直し、削減を図る。	○	-

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない
-：非該当

(2) 廃棄物排出量の削減

① 一般廃棄物排出量の削減

環境経営目標を達成できました。排出量も前年に比べ減少していますが、内訳を見るとシュレッダー屑及びOA用紙その他が目標を達成できていません。OA用紙は、ファイルなどから外し、きちんと分別され機密上問題が無い分は、有価買取が可能です。日頃から分別し、各職場で集めたものを年に1～2度、決まった月に収集を依頼するなどの工夫を行い、量の削減だけでなく経費節減にも繋げていきます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目			単位	2014年度(基準年)	2018年度	2019年度 (2019年4月～2020年3月)		目標達成率	達成状況判定	2014年度 排出量(kg)	2018年度 排出量(kg)	2019年度 排出量(kg)
				実績値	実績値	目標値	実績値					
① 一般廃棄物 排出量の 削減	本社・工場・九州サービスセンター	生ごみ・その他	kg/百万円	1.59	1.08	1.51	1.22	124%	○	24,114	30,652	27,786
		シュレッダー屑		0.04	0.03	0.04	0.04	90%	×	344	880	960
		OA用紙		0.20	0.135	0.19	0.25	77%	×	3,080	3,850	5,760
		その他一般廃棄物		0.06	0.009	0.06	0.01	433%	○	994	256	221
		計		1.89	1.25	1.80	1.53	118%	○	28,532	35,638	34,727
	支店・営業所・サービスセンター	kg	4,399	4,118	4,179	4,493	93%	×	4,399	4,118	4,493	
全社			kg/百万円	2.16	1.40	2.06	1.38	149%	○	32,931	39,756	39,220

備考) ・2019年度の生産高(売上高)は、22,768百万円として計算しました。

・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。

・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない

・支店・営業所・サービスセンターに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
ア	生ごみなど、可燃廃棄物排出量の削減	各職場担当者を決め排出量を管理し、月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	○
イ	シュレッダー屑の分別	生ごみなどと混在して廃棄されているシュレッダー屑を分別廃棄し、リサイクル化する。又月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	-

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない -:非該当

② 産業廃棄物排出量の削減

環境経営目標を達成できました。排出量も前年に比べ減少しています。要因はダンボールが有価買い取りとなり、産業廃棄物から外せるようになったためですが、廃プラ、木材は、売上減にも関わらず増加しています。これは、上期前半の前年度分の廃棄及び、第4四半期の塗料の棚卸や機械入替による含油水の大量廃棄によるものです。また、ショット玉と呼ばれる、塗料の付いた金属屑が金属業者による引取りが可能になり、産業廃棄物から外すことが出来るようになりました。今後、排出量の削減だけでなく、経費節減も期待できます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目	単位	2014年度(基準年)	2018年度	2019年度 (2019年4月～2020年3月)		目標達成率	達成状況判定	2014年度 排出量(kg)	2018年度 排出量(kg)	2019年度 排出量(kg)	
		実績値	実績値	目標値	実績値						
② 産業廃棄物排出量の削減 九州サービスセンタ 本社・工場・営業所	kg/百万円	廃プラスチック	2.2	0.6	2.1	0.9	223%	○	33,099	17,509	21,168
		廃油	3.4	2.8	3.3	3.0	107%	○	51,888	79,543	69,066
		木材	3.1	2.5	3.0	3.8	78%	×	47,374	72,460	86,680
		ダンボール	1.3	1.2	1.2	0.1	1465%	○	19,200	34,540	1,871
		計	10.0	7.2	9.5	7.9	121%	○	151,561	204,052	178,785
支店・営業所・サービスセンタ	kg	6,885	9,235	6,543	9,786	67%	×	6,885	9,235	9,235	
全社	kg/百万円	10.45	7.49	9.93	8.3	120%	○	158,446	213,287	188,020	

備考) ・2019年度の生産高(売上高)は、22,768百万円として計算しました。
 ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
 ・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない
 ・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	サ
ア 廃塗料(廃プラスチック)の削減	塗装仕様書に基づき適正な使用量を計画し、管理する。	○	-
イ 廃油の削減	業者に買取が可能廃油は、分別を徹底させ、200Lドラム缶単位で排出量を把握し、EA21委員会に報告する。	○	○
ウ 廃棄木材(リサイクル)の削減	リサイクル品として業者に収集を依頼している木材に関し、毎月廃棄量を集計し、EA21委員会に報告する。	○	-

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない

(3) 水使用量の削減

環境経営目標を達成できました。使用量も前年に比べ減少しています。使用量減少の要因は出荷時に水を使用する精密機械事業部の生産（売上）の減少です。今年度本格稼働した精密第2工場の水使用量は、10～20m³です。今後も、工場毎の水使用量を注視していきます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目	単位	2014年度 (基準年)	2018年度	2019年度 (2019年4月～2020年3月)		目標 達成率	達成 状況 判定	2014年度 使用量 (m ³)	2018年度 使用量 (m ³)	2019年度 使用量 (m ³)	
		実績値	実績値	目標値	実績値						
① 水 使用 量の 削減	本社・工場・九州営業所・ 九州サービスセンタ	m ³ /百万円	0.47	0.38	0.44	0.34	132%	○	7,056	8,371	7,640
	支店・営業所・サービスセンタ	m ³	518	537	492	537	92%	×	518	537	537
	全社	m ³ /百万円	0.52	0.31	0.50	0.36	141%	○	7,574	8,908	8,177

備考) ・2019年度の生産高(売上高)は、22,768百万円として計算しました。
 ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
 ・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない
 ・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 日常生活水の削減	節水シールを貼り、節水を意識づける。	○	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

(4) 物質使用量（購入量）の削減

環境目標を達成できませんでした。しかしながら、使用量は前年より減少しています。要因は、生産量（売上）の減少です。使用部署の把握が課題となっており、調査したところ木材に関しては、産業機械事業部よりマテハン事業部のほうが購入量が多いなどの事が分かってきました。詳しい購入内容の調査も行っていきます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目	単位	2014年度 (基準年)	2018年度	2019年度 (2019年4月～2020年3月)		目標 達成率	達成 状況 判定	2014年度 使用量(kg)	2018年度 使用量(kg)	2019年度 使用量(kg)	
		実績値	実績値	目標値	実績値						
① 物 質 使 用 量 の 削 減	kg/百万円	九州サ ービス センタ	4.5	5.8	4.2	5.6	76%	×	67,735	126,763	126,424
		本社・工 場	3.3	2.3	3.1	2.2	143%	○	49,679	49,730	49,659
		支店・営 業所	0.6	0.6	0.5	0.5	102%	○	8,688	12,582	12,133
		計	8.3	8.6	7.9	8.3	96%	×	126,103	189,075	188,216
	支店・営業所・サービスセンタ	kg	4,024	4,232	3,823	3,667	104%	○	4,024	4,039	3,667
全社	kg/百万円	8.6	8.8	8.2	8.4	97%	×	130,127	193,114	191,883	

備考) ・2019年度の生産高(売上高)は、22,768百万円として計算しました。

・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
 ・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない
 ・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 木材、ダンボール、紙使用の削減	毎月購入量を集計し、EA21委員会にて報告、廃棄量と合わせて、削減案立案に向け分析する。	○	○

備考) 実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

(5) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進

① 環境改善活動 (QC, VE, IE) の完結報告

環境改善活動は、環境経営目標を達成できました。しかしながら、上半期では目標を達成できていません。QCに関しては、計画どおり完結できている部署と、そうでない部署との差があるようです。活動の仕方の違いなど、事務局と協力して調査し、改善に繋げていきます。また、VE、IEに関して効果金額も目標値としてあげていますが、目標を達成できませんでした。今後は、効果金額や内容にも目を向け活動していきます。

③ 環境に配慮した製品の開発

環境配慮製品の開発に関しては、今年度3件着手し、1件完了しましたが、結果的には目標を達成できませんでした。未完のものに関しては、次年度も開発を継続します。今後は、完結件数だけでなく、エネルギー使用量の低減や重量の軽減など、環境改善に関する具体的数値を目標化することを目指し、データ収集などを行っていきます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目	単位	2014年度 (基準年) 実績値	2018年度 実績値	2019年度(2019年4月～2020年3月)						目標 達成率	達成 状況 判定
				上半期		下半期		年度計			
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値		
① 環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告件数	件	533	556	322	256	169	300	491	556	113%	○
	千円	-	35,213	-	82,322	-	198,216	381,800	280,538	73%	×
② 環境配慮製品の開発	件	5	1	\	0	\	1	3	1	33%	×

備考) ・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない -：判定不能

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① QC、VE、IEに関し、環境活動に有効な改善の件数の把握と活動の推進	完結件数の把握とEA21委員会や各委員会での報告(3か月に一度)及び活動の推進。	○	○
② 環境配慮製品の開発	EA21委員会で、開発状況について報告する。	○	-

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

(6) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底

今後も法令に基づき、毎年6月に使用量の届出を行うと共に、四半期毎に使用量を集計することで、排出量の管理を行っていきます。

<環境経営目標の達成状況>

- PRTR制度対象物質の適正使用に関して、データ収集し、2020年6月に使用量届出を行いました。

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 化学物質の適正使用、適正管理の徹底	PRTR制度対象物質の集計を4半期毎に行いEA21委員会に報告、適正管理に努め、届出の遵守に備える。	○	-

備考)・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない -：判定不能

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価結果並びに違反訴訟等の有無

- 当社に関する環境関連法規等の遵守事項は、以下のとおりであり、2019年度遵守状況を確認した結果、法令違反等はありませんでした。
- また、関連機関や利害関係者からの違反指摘や訴訟等は、過去3年間ありませんでした。

主な環境関連法規	主な遵守事項
廃棄物処理法	マニフェストの発行、保管
フロン排出抑制法	許可業者への委託及び定期点検の実施
化管法 (PRTR法)	特定化学物質の排出量を年に1度6月に届出する

9. 内部監査の実施状況

- 外部審査に先立って、環境管理システム全体の状況を内部監査した結果、環境への取組についてのガイドラインで規定する要求事項に適合していることを確認しました。
- 結果を代表者に報告し、環境管理責任者の指示を受け、ISO14001へのスムーズな移行と、変化に対応した環境活動への取組の維持推進を目指し、活動しています。

10. 環境教育訓練の実施状況

●教育訓練計画書に基づき全社員対象に以下の内容で教育訓練を行いました。

2019年	4月	・・・	エコドライブについて（車両運転者向け）
2019年	4月	・・・	エコアクション21の概要（新入社員向け）
2019年	8月	・・・	廃棄物置場の運用の説明と分別徹底の再確認。
2019年	9～10月	・・・	環境活動レポートの説明及び 2019年度活動中間報告（全社員向け）
2020年	3月	・・・	内部監査員教育

11. 全体の反省と今後の取組

エコアクション21の活動開始から7年が経過し、2016年9月には認証範囲を拡大しました。活動を通して、変動要因などを分析してきましたが、項目により良く分かるようになってきたもの、掴みきれていないものがあります。今年度は、全社LED化の効果により、精密2工場の本格稼働による電力使用量増加をある程度抑えることが出来ました。今後は、電力、ガス、水の使用量や廃棄物の排出量など、状況に応じての早めの対応や、廃棄前の日々の分別の推進など、一歩進んだ対策を行い、排出量や使用量の削減だけでなく、経費節減にも繋げていきます。



* LED化後の産機工場

12. 代表者よる全体評価と見直しの結果

今年度は、二酸化炭素をはじめ、物質購入量（使用量）以外のほぼ全項目で目標を達成することができました。達成出来ていない項目に関しては、購入部署や内容の把握など、要因を追求し対策を行って下さい。2020年度は、ISO14001の認証取得を予定しています。速やかな認証取得に向け協力し、一歩進んだ環境活動を目指して下さい。

13. 地域への貢献

- 会社周辺の清掃活動など、積極的に地域貢献を行っています。



* 年度末清掃の様子